

## 第4章 結果2. 面接調査を中心に

### 1. 面接調査の概要

#### 1) 調査の目的

高校生が行なう「悪いこと」についての質問紙調査に協力し、更に詳しい面接調査にも協力してもよいと、調査用紙に記入したものを対象に、過去に行なった「悪いことについて」さらに「かつあげ」「援助交際」をしなかった理由について面接調査した。

#### 2) 調査方法

##### a) 調査対象者

年齢	19～20	21～22	23～25	26歳以上	計
男子	6	7	6	0	19人
女子	10	7	4	2	23人

b) 面接担当者 大学院学生6名 1名につき6名担当  
カウンセラー2名

c) 調査時期 平成11年2月より3月

##### d) 調査内容 質問項目

1. 今までに経験した「悪いこと」はどんなことか。
2. 「悪い」ということはどういうことなのか。
3. これまで心の痛みを感じたことはあるか。

- 男子
1. 「かつあげ」をしたことはあるか。  
なぜやらなかったか。
  2. 女子高校生の援助交際について  
どんな人がするのか。  
それをどのように考えるのか。

女子 女子高校生の援助交際について  
 どんな人がするのか。  
 それをどのように考えるのか。  
 なぜやらなかったのか。

男女ともに

1. 家庭環境。
2. 親子関係。

e) 面接時の状態

調査対象者は質問紙調査の最終頁に、面接調査に協力してくれるかどうかを尋ねた欄に、その旨を記入し、連絡のための電話番号を書いた。約90名応じてくれた。面接担当者はこの中から年齢、男女にかたよりのないように、6名づつを選び、面接の時間を予約した。

面接の場所は大学の小教室をつかい、調査対象者と面接者1組づつが使用した。

面接者は質問内容を調査対象者の目の前で逐語記録することなく、テープで録音することもなく、ごく自然な雰囲気の中で調査項目すべてに言及するように努力した。

面接後、各質問項目にそって記録した。

調査対象者は3名ほど予定の時間に来ないものがあったが、他はほとんど時間通りに来校した。

質問調査の折、面接に協力したものについては、謝礼を出す予告しており、図書券を面接終了後にわたした。

面接時間は平均して1時間から1時間半であり、なかにはそのあと話しこんでいくものもあり、無理して協力するという感じではなかった。なぜ面接に協力したかを聞くと、将来このような形の社会調査をしたいので、どのようにやるのか参考のために協力したとか、調査自体に興味があり、これがまとまったら資料を送って欲しいと申し出るものもあった。したがって面接に応じたものは好意的なものと考えられる。

## 2. これまでにした「悪いこと」について

<これまでにした悪いこと>

(数字は人数、複数回答を含む)

男子	・万引	8,	・いじめ	5,	・キセル	3,
	・たばこ	2,	・酒、たばこ	3,	・授業をさぼる	1,
	・自転車をぬすむ	1,				
女子	・いじめ	4,	・うそをつく	3,	・万引	2,
	・たばこ	2,	・酒	2,	・授業をさぼる	2,
	・キセル	1,	・交通事故	1,	・言葉で傷つける	1,
	・約束を破る	1,	・自転車をぬすむ	1,	・火をつける	1,
	・先生の本を隠す	1,				

男子では、「万引」が多い。みつかったものはこの中の半数くらいである。みつかったものは、特に母親の嘆く姿をみて、悪いことをしたと深く後悔するもの、また停学になり自分が思っていたよりずっと重大なことになり、悪いことをしたと反省している。みつからなかったものは、友人とのゲーム感覚で行なったという。したがってほとんど反省の気持ちはないようである。しかし過去に行なった悪いことの筆頭に万引があげられているところを見ると、彼等の心の中に「悪いこと」という意識はあるようである。

女子で一番多いものは「いじめ」であり、男子でも2位と多い。「いじめ」の形が教師や親からは親しい友達と考えられるような身近な集団の中できりかえされたようである。彼等が大学生になって、いじめられたものの立場を顧みられるようになって、悪いことをしたと考えるようである。あるものは小学生の頃にずっとひとりの子の面倒をみるような関係と他の人からみられながら、実は言葉で長い間にわたっていじめていたことを深く反省していた。

### 3. 「悪いこと」についてどう考えるか

＜悪いことについて＞

(数字は人数, 複数回答を含む)

男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を精神的に傷つけること 6,</li> <li>・法にふれること 2,</li> <li>・うらぎること 1,</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に迷惑をかけること 5,</li> <li>・親にうそをつくこと 2,</li> <li>・大多数の人が悪いと思うこと 1,</li> </ul>
女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に迷惑をかけること 14,</li> <li>・法にふれること 2,</li> <li>・うらぎること 1,</li> <li>・自立していないのに勝手なことをすること 1,</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を言葉で傷つけること 3,</li> <li>・倫理に反すること 2,</li> <li>・ルールを守らないこと 1,</li> </ul>

男女ともに「人に迷惑をかけること」「人を精神的に傷つけること」が群をぬいて多い。「人」というのは、ごく身近な「親」「友人」などである。身近な人との対人的な関係を損なうことを「悪いこと」と考えるのは、質問紙調査による結果の中で第5因子の「対人関係を損なう行為」が「犯罪行為」の因子について悪いとされていることとも関連するものである。

「悪いこと」ということに、法にふれるような犯罪行為に言及することは少ない。もちろん彼等の頭の中にあっただろうが、一般的に「悪いこと」というのは、ごく日常的な対人関係の中に含まれることと考えられる。広く対社会的、世界、人類というような発想はなく、宗教的なものにふれることは全くみられなかった。

#### 4. かつあげについて、これをしなかった理由

〈かつあげについて〉

男子ーしなかった理由ー

(数字は人数, 複数回答を含む)

・自分のプライドが許さない	4,	・人を傷つけない	3,
・みつかるのがこわい	3,	・逆にやられる	3,
・心が痛む	1,	・人に迷惑をかけたくない	1,
・好きなやり方でないから	1,	・倫理観が抑制した	1,
・そういう気持ちなし	1,		

調査対象者の中に自分の方から「かつあげ」を行なったものはいなかった。「かつあげ」をやられたもの、やられそうになったものは半数くらいいた。彼等はとてもこわい経験をしたと感じるとともに、そのような被害者になるのをかっこ悪いと考えるものもいた。

「かつあげ」をしなかった理由としては、自分はそんなことをする人間ではない、プライドが許さないというものと、人を傷つけない、心が痛むという性格的なやさしさを述べるものもいた。また外見的に小柄で弱々しい感じの青年が、本当はちょっとやってみたいけれど、逆にやられると知っているものもいた。

#### 5. 援助交際について、これをしなかった理由

〈援助交際について〉

男子ーどんな人がするかー

(数字は人数, 複数回答を含む)

・友達に誘われてまねする人	2,	・深く考えない人	2,
・ブランド品がほしい人	2,	・さびしい人	1,
・自分というものがいない人	1,	・プライドがない人	1,
・愛も希望もない人	1,		

ーどのように考えるかー

(数字は人数, 複数回答を含む)

・恋人だったら許せない	3,	・本人の問題だから悪くない	2,
・セックス自体は人に迷惑をかけないから悪くない	2,		
・自己責任でしているから悪くない	2,	・家庭に問題あり	2,
・個人より社会に問題あり	1,	・家庭の影響より雰囲気です	1,
・お金をはらう大人が悪い	1,	・恋人だったら説教してやる	1,

女子—どんな人がするか—

(数字は人数, 複数回答を含む)

・ブランド志向で派手ずきな人	4,	・地道にお金を得ず楽したい人	3,
・自分を大切にしない人	2,	・家族の中で居場所がない人	2,
・まわりに流されやすい人	2,	・物でしか自分を表現できない人	1,
・プライドのない人	1,	・みたされない人	1,
・すきがある人	1,		

—どのように考えるか—

(数字は人数, 複数回答を含む)

・本人の問題だから悪いことはない	3,	・お金が介在する	3,
・親の育て方に問題あり	3,		
・本人の問題といわれるが後悔する	2,		
・自分をアピールしたがっている	2,	・道徳的に許せない	1,
・売る人と買う人がいて直接迷惑かけない	1,		
・お金で身体を売るなんて許せない	1,		
・擬似恋愛を求めている	1,		
・売春だから親や学校に迷惑をかける	1,		

—援助交際をしなかった理由—

(数字は人数, 複数回答を含む)

・自分を大切にしたい気持ち強い	7,		
・親や大切な人を裏切ることできない	4,	・ばかばかしい	3,
・お金などでかわりを持ちたくない	2,	・興味, 関心なし	1,
・倫理的に許せない	1,	・納得いかない	1,
・後悔する	1,	・好きでない人とはできない	1,
・お金に困っていない	1,		

調査対象者が高校生の頃には援助交際はそれほど話題になっておらず、彼等が卒業して2～3年後にマスコミの話題になったようである。従ってごく身のまわりにそれに関係している人がいるという人は少なかったようで、何人かはマスコミからの情報で判断するかと前置きして述べている。

彼等の多くがイメージする援助交際を受け入れる人は、自分を大切にしないで、ブランド品を身につけたいと思い、そのような手段でお金を得るような人である。正当な職業でお金を得ずに、楽をしてお金を得ようとする。物によってでしか自分を表現できない人ともいっている。また家庭の中で居場所がなく、さびしい人であるという。援助交際がお金

を得るだけでなく、心の中のさびしさをまぎらわす手段としてもつかわれているのではないかと、考えるものもいた。このような傾向には性差はみられなかった。

援助交際そのものは、成人の男性がお金によって売春する形で行なわれていると考えられるが、そのような大人が悪いと言及するものは、ごく少数であった。ブランド品などにあこがれる金銭感覚の歪みを指摘するものもいなかった。

もっとも多いのは、男女ともに本人の自覚の上で行なわれているから、「悪くない」と考えるものである。行為の選択は本人の判断に委ねられ、悪いことの基準は「他の人への迷惑」を与えているか否かにおかれていることであった。

女子の側から「援助交際をしなかった理由」として、もっとも多いのは「自分を大切にしたい気持ちが強い」という自尊感情と、自分に対して誇りや自信を持つことにあることにふれ、それは「親や大切な人を裏切ることにはできない」につながり、ここまで大切に育ててくれた親たちへの責任を述べている。

この調査対象者の集団は安定した家庭の中で育ったものが多く、援助交際にかかわるような集団とは、かなり異なったものであることが考えられる。

大多数の人は上記のような理由で「援助交際をしない」と考えられる。しかし援助交際は人に迷惑をかけていないから「悪くない」として、他人のここのように考える同世代の意見については、深く考えさせられるものがある。

男子の側にはもし恋人が援助交際をしたという噂があったらどうするかと聞いたが、「それは絶対いけないことだ。説教してやる」とすぐにも実行しそうに言った人もいたが、「彼女の責任でやっていることだから、自分は何も言えない」と言った人もいたことを付け加える。

お金をもらわないということで援助交際ではないが、見知らぬ人とセックスをすることを否定しない人は2名いた。もしその人が自分の好きなタイプなら受け入れても良いと言う。そのひとは、初対面の人に声をかけられ、相手の男性（24歳年上）が好みのタイプであったので、食事をした後ホテルまで行ったという。また顔見知りの既婚者にも誘われて関係を持ったことを話している。彼女は身体は売り物じゃないが、それほど大切にしていけないという。自分の好きなタイプなら抵抗なく受け入れてもよいという。彼女たちの家庭、家族との関係は普通であり、特に変わったものではなかった。

調査対象者全体として、セックスはお金のためではなく共有する愛があるからするのだとうう。逆にいえば、その時愛を感じたら、すぐセックスをしてもいいと考えるものも少なくないと思われた。質問紙調査で「セックスをする」ことについて、ほとんど悪くないと考えている結果を裏づけるものである。

## 6. 家庭環境, 親子関係

### <家庭環境, 親子関係>

男子	・家庭の雰囲気安定 13,      ・父に反感を持ちそのまま 3, ・以前は家庭と疎遠だったが今は良好 1, ・家からも電話なく無干渉 1,
女子	・家庭の雰囲気安定 14, ・育った環境には反発していたが今は納得 5, ・親のいいなりになりたくないは今もつっぱりきみ 3, ・親は無干渉 1,

男女ともに家庭環境, 親子関係は良好なものが過半数をしめている。母親が職業を持ち小さい時にはさびしい思いをしたというものもいたが, 将来同じような職業につきたいともいっている。母親が保母や福祉の関係の職業にいるので自分もその道にすすみたいという男子もいた。

面接時の発言では, 母子の関係が密接で友人のような関係であるというものもいた。それに比べると, 父子関係に言及するものは少なかった。日本の家庭の中の父親の存在が希薄であることがうかがわれた。

小さい時は厳しいしつけとを考えていたが, 大学生になり, それが親の愛情であることがわかったという女子も多かった。